



1 楽しく工作・ゲームできた!



本校の展示ブースの様子

11月24日(日)、「第23回下大野サ皆こまつり」が下大野公民館で開催されました。本校は『わくわく☆キラキラ★イリュージョン』をテーマに、電子工作やゲーム『大谷ショータイム50-50』(ホームランと盗塁数を競う)を出展し、多くの来場者が楽しく体験していました。参加した小学生は「大記録に挑戦できた」と笑顔で話していました。



2 コンクール入賞者決定!

11月25日(月)、第3回「IT未来を拓く実践力コンクール」の新聞スクラップ部門の審査会が行われました。本年度の審査は、勝田工業高等学校の浜田校長、勝田高等学校・勝田中等教育学校の下山田芳子校長、茨城新聞社の小岩泰規NIEコーディネータに依頼しました。審査会では下表の3人が選ばれ、12月2日(月)の作品朗読を経て入賞順位が決まります。審査員からは、「新聞記事をしっかり読み込み、IT技術者としての視点で自分事として感想がしっかり述べられている」と評価頂きました。

	氏名	見出し
A	システム 松倉 洋輝	農業作業中事故 全産業の10倍 朝日新聞 10月8日(火)
B	生産管理 海野 雄哉	社長の“分身”アプリに 茨城新聞 9月25日(水)
C	セキュリティ 湯浅 隼人	「特ダネ」欧米支援急げ 読売新聞 11月19日(火)



審査会の様子

3 『記事トレ』紹介



本校では、IT専門力に加え社会人基礎力の向上のため『記事トレ』を実施しています。新聞を読み、要約とIT技術者としての感想を書くトレーニングを通して読み解く力を育成します。

＜記事トレ＞朝日新聞(2024年11月21日)
報酬数万円「ホワイト案件」のはずが
～すき間時間で生活費を・・・大学生が闇バイトに～

●土肥綺音さん(中央高卒)

◇要約:生活費に困る大学生が「ホワイト案件」と偽った闇バイトに応募し、強盗未遂事件に加担し逮捕された。

こうした闇バイトは若者を狙った手口が多く、社会問題となっている。被害を防ぐには、若者への支援や犯罪組織の取り締まりが急務である。

◇感想:ネットを悪用した犯罪防止には、不審な求人を検出する技術や安全なプラットフォームの構築が必要だと感じた。

IT技術者として、そうしたシステムの構築や情報リテラシー教育が重要だと考える。技術を善意に活かす責任を改めて感じさせる事件である。

●菱沼大清さん(多賀高卒)

◇感想:この記事を通して、普段から新聞を読み、情報リテラシーを高める必要があると思った。

世論の意見を知ることで、課題解決にもつながる。自分自身も新聞を読み、視野を広げていきたいと思う。

●宮崎希輝さん(佐和高卒)

◇感想:経済的な苦しさ若者を犯罪へと追い込む現状に心が痛む。

また、SNSを通じた犯罪勧誘の危険性と、学生が陥りやすい経済的な脆弱性を社会全体で支援する必要性を強く感じる。安易な誘いに乗らない注意喚起が重要である。

●伊藤大晟さん(鹿島高卒)

◇感想:闇バイトかどうかは、条件を見るだけでは分からない。闇バイトに加担させられそうになったら、家族や警察に相談するべきだと思った。バイトをするなら近所の行きつけのお店や、信頼のおけるお店を選ぶべきだと思う。



●山中悠梨音さん(那珂高卒)

◇感想:私は学生が無理にバイトを探す必要がない社会にしていきたい。

闇バイトの可能性のあるものは除外し警告するような技術を開発して、皆が安全に働けて健康的で充実した生活が送れるようにしたい。

